

2 学年国語

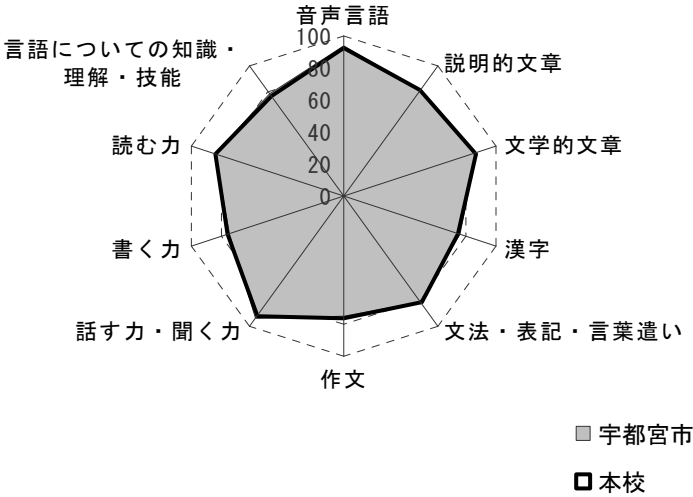
1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率 (宇都宮市と本校の状況)

■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	音声言語	93.6	92.3
	説明的文章	81.6	80.8
	文学的文章	86.2	86.2
	漢字	76.7	75.3
	文法・表記・言葉遣い	81.4	82.5
	作文	75.0	75.6
観点別	話す力・聞く力	93.6	92.3
	書く力	75.0	75.6
	読む力	83.9	83.5
	言語についての知識・理解・技能	78.2	77.7

受検人数	宇都宮市	本校
	3977人	198人



(2) 領域別・観点別平均正答率 (平成19年度と平成18年度の状況)

■平均正答率

		本年度	昨年度
領域別	音声言語	92.3	94.5
	説明的文章	80.8	84.3
	文学的文章	86.2	88.6
	漢字	75.3	76.8
	文法・表記・言葉遣い	82.5	82.8
	作文	75.6	68.6
観点別	話す力・聞く力	92.3	94.5
	書く力	75.6	68.6
	読む力	83.5	86.5
	言語についての知識・理解・技能	77.7	78.8

受検人数	本年度	昨年度
	198人	190人

※平均正答率の状況から、今後指導の重点を置くべき領域や観点を明らかにし、指導の工夫・改善を図っていきます。

2 指導の工夫・改善（2年国語）

領域 (平均正答率)	平成19年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (92.3%)	<p>正答率が90%を超えており、昨年度から比べると17.9ポイント伸びているが、昨年度の本校2年生と比べると2.2ポイント下回っている。</p> <p>話の趣旨の聞き取りでは、98.1%とよい成績を収めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや発表の活動を積極的に取り入れ、的確に話したり、聞いたりする能力を身に付けさせたい。 ・相手の意図を正確に聞き取ることの重要性を理解し、よく聞くことへの意識付けを行っていききたい。
説明的文章 (80.8%)	<p>昨年度の2年生と比べると3.5ポイント下回っているが、市の平均とほぼ同じである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的文章の読解の際に、事実と意見の読みわけを意識させ、要旨を書く学習に力を入れたい。また、個別指導を行いながら、全体の読解力の向上をしていきたい。 ・文章中の語句の意味と、辞書的な意味の違いを捉えさせる指導を行っていききたい。
文学的文章 (86.2%)	<p>昨年度の2年生と比べると2.4ポイント下回っているが、市の平均とほぼ同じである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情をとらえることに重点を置き、表現から読み取る授業展開を工夫する。 ・辞書的な意味と文脈上の意味の違いを読み取って、読解をすすめられるように指導する。
漢字 (75.3%)	<p>昨年度の2年生と比べると2.4ポイント下回っているが、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>漢字の読みは90%を超えているが、書き取りが努力を要する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の指導に重点をおく。特に、書き取りの能力を向上させるため、教材ごとの小テストを実施し、定着を図る。 ・日常生活でも、正しく漢字を使っていくよう日々指導する。
文法・表記 言葉遣い (82.5%)	<p>昨年度の2年生とほぼ同じ正答率である。宇都宮市の平均よりも1.1ポイント上回っている。</p> <p>小問別正答率でも、すべて市の平均を上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や、ノート指導の中で適切な言葉遣いや正しい表記についての能力を定着させたい。 ・文法の授業においては、身近な文例から理解が深まるような指導を考えていくとともに、問題集を活用し内容の定着を図りたい。
作文 (75.6%)	<p>昨年度比7.0ポイントの上昇で、ほぼ市の平均と同じである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作文に対する苦手意識を持っている生徒が多く見受けられるので、授業の中で短作文や感想文を書く機会を増やし、書くことに慣れさせていきたい。 ・目的にあったわかりやすい文章を書くための指導を引き続き行っていききたい。